研究結果

本研究の目的は、国の施策が、先行した地方の政策にどのような影響を及ぼすかを 明らかにしたことである。具体的には、2005年度に国が開始した「キャリア教育実践 プロジェクト|が、それに8年先行した兵庫県の「トライやる・ウィーク」に与えた影響 を明らかに探究した。研究成果は、①国の意図が施策にある意味の主導権を完全的に 握っていた、という現状を「キャリア教育実践プロジェクト」に反映しているのを把握 したこと、②国の施策とのズレに地方自治体が積極的に対応したが、既定した国の施 策に対する影響があまりなかったし、その後の事業に主な活動概要への影響を与えな かったのだが、活動の要旨などの部分に国の施策を意識しながら文字化として入れた ような傾向を検証したことである。③こうした結果を踏まえて、国が施策を策定する 際、地方の特色を適切に考慮したにもかかわらず、国と地方の連携を図れようとして も、お互いの関係作りのあり方がいまだ整えていないままの現状を明らかにした。そ して、日本の経験を参考に、台湾型の「トライやる・ウィーク」を実施する可能性を探 る際、中央と地方の関係作りを先に行う必要があると考えられる。中央施策の役割は 、生徒にとって有益な活動事業を実現するために、地方の特色ができるだけ取り上げ るような支援ネットワークを行うことである。そのためには、生徒を取り巻く関係者 の取り組みができるだけ柔軟に行われるようにトップダウン方式をなくしていくこと 、問題点を改善していくための情報を広く集め、それを事業運営に反映していくこと などが求められようと今後の課題として設定されている

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- ① 杜念慈、2007.11。地域支援ネットワークの現状と課題-日本兵庫県体験学習活動に参加した指導ボランティアを例として-。2007年台湾社会学年会。11月24-25。台北:台湾大学。
- ② 杜念慈、2007.11。体験学習活動の実施現状と発展ビジョン。2007年アジア体験教育年会。11月24-25。台北:国立体育学院。
- ③ 杜念慈、2007.11。10年目を迎えた兵庫県の社会体験(職場体験)活動「トライやる・ウィーク」シンポジウム。主催:兵庫県教育委員会。11月12。会場:兵庫県公館大会議室。(外海ゲストとして紹介され、発言し、『地域の学ぶ「トライやる・ウィーク」10年目の検証(報告)』に載せた。)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ① 杜念慈、2008。中学生の体験学習活動-日本兵庫県「トライやる・ウィーク」活動事業を例として-。(論文は2008年1月4日〈体験教育学報〉に投稿し、ただ今審査中)。
- ② 杜念慈、2008。地域支援ネットワークの現状と課題-日本兵庫県体験学習活動に 参加した指導ボランティアを例として-。(論文は2008年1月18日〈台湾教育社会 学研究〉に投稿し、ただ今修正後再び審査を受け)。
- ③ 杜念慈、2008。学校体験学習活動の実施に参加した地域支援ネットワークの現狀と課題-日本兵庫県を例として-。 (論文は2008年6月30日〈教育研究集刊〉に投稿する予定)。

書籍(題名・著者名・出版社・発行時期等)

英文研究結果及び研究成果の公表について

研究結果 (英文)

As the Japanese government's central administration (MEXT's National Policy) is about to implement national business initiatives, this study aims to investigate the influence of similar initiatives which have been in place locally for years. A specific example is the investigation into how Career Education Practice Project Work, which was implemented throughout Japan in 2005, influences Hyogo Prefecture's Trai-yaru Week project, which has been implemented for 8 years. The study finds that once MEXT's National Policy considers a locally implemented initiative as the model for imitation, it immediately begins top-down control, i.e. whatever the objectives and results are of a local business initiative, the central administration's interpretation takes MEXT's National Policy as its main reference. In the face of such outcomes, local administrative bodies are unable to change central policies, and so wield little influence over guidelines set out in MEXT's National Policy, although they do attend pertinent hearings and report the aspirations as well as the results of their business initiatives. On the other hand, there is no significant impact on locally implemented business initiatives except for adjustments made to business objectives as a result of incorporating ideas of MEXT's National Policy. Drawing upon Japan's experiences, we find that local business initiatives taken over by the central administration do not take into account the implementation objectives of the central administration despite the central administration's inspection on local policies. Accordingly, bilateral coordination and cooperation is not yet established between the central and the local governments. As we turn our focus to the situation in Taiwan, we believe it is absolutely necessary for the central administration (ME's National Policy) to refer to and incorporate local characteristics if such business initiatives are to be implemented in Taiwan.

研究成果の公表について(予定も含む) (英文)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)